

市民参加による防災活動

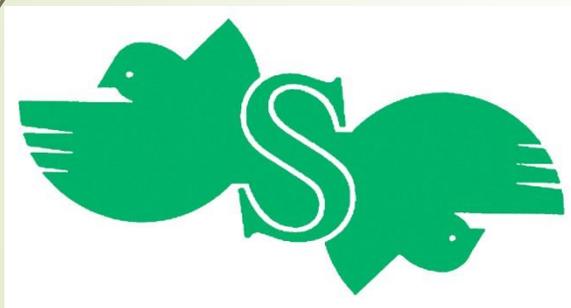
障がい者（聴覚）や中学生，ペット同行避難も含めた
「雀宮地区防災訓練」について

1

令和8年1月14日
雀宮地区自治会連合会

雀宮地区の概要

- ▶ 旧国道四号線（昔の日光街道）沿いに古くから南の玄関口として栄えた宿場町
- ▶ 明治22年の市町村制施行「雀宮村」
昭和28年の町制施行「雀宮町」
昭和30年の町村合併により「宇都宮市」に合併



シンボルマーク



マスコットキャラクター
「ちゅん太」「ちゅん子」

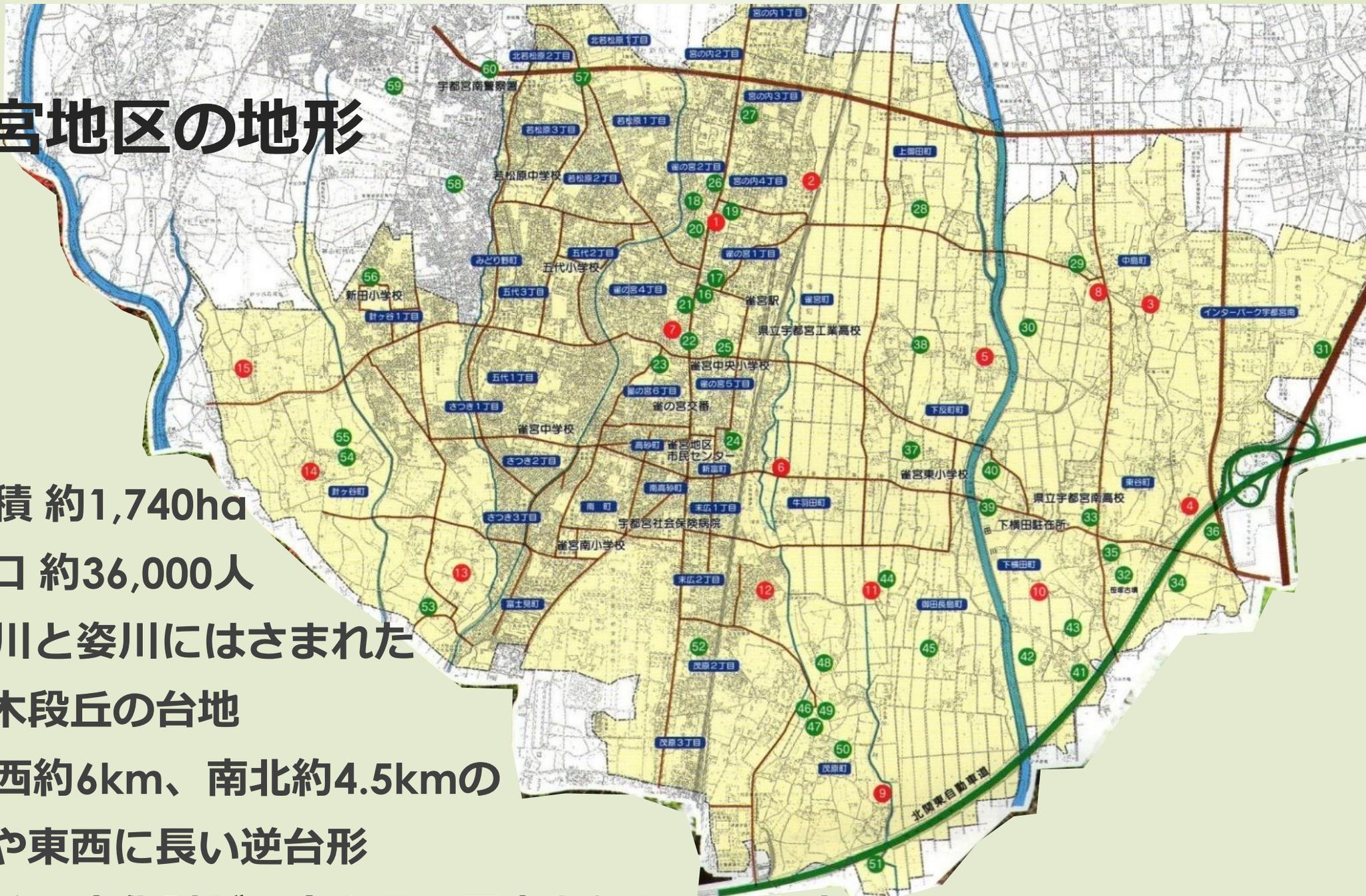


農作物
「いちご」「なし」など

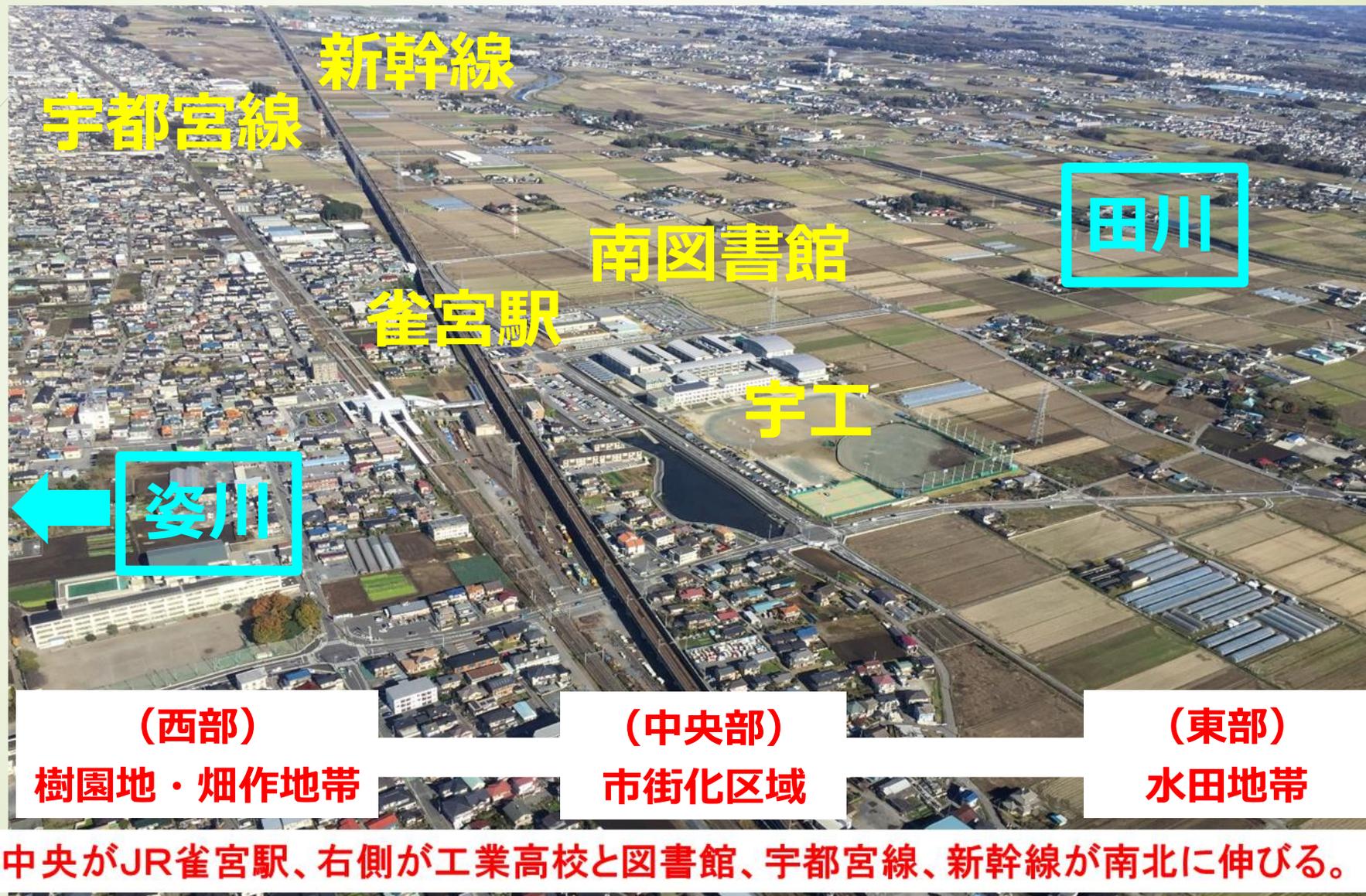
3

雀宮地区の地形

- ➡ 面積 約1,740ha
人口 約36,000人
- ➡ 田川と姿川にはさまれた
宝木段丘の台地
- ➡ 東西約6km、南北約4.5kmの
やや東西に長い逆台形
- ➡ 多くの文化財が、今もその歴史を伝えています。



令和時代の雀宮地区



茂原古墳群



雀宮地区防災訓練（R6年度実施結果）

- 実施日時 令和7年3月9日（日）午前9時～12時
- 会場 雀宮地区市民センター
- 参加人数 256名

防災会, 自治会	146名
自衛隊OB, 女性防火クラブ, 民生委員児童委員協議会, 動物愛護推進員, 交通安全協会, 防犯協会	34名
雀宮中生徒, 地域包括支援センター, スポーツクラブ, 福祉関係者等	23名
南消防署, 消防団雀宮分団, 南警察署, 市民センター	53名

- 実施内容 震度6強が発生した場合の「関係機関との連携」, 「応急救護訓練等」

訓練の様子

7



負傷者救出救護訓練



応急救護訓練
(AEDの取扱など)

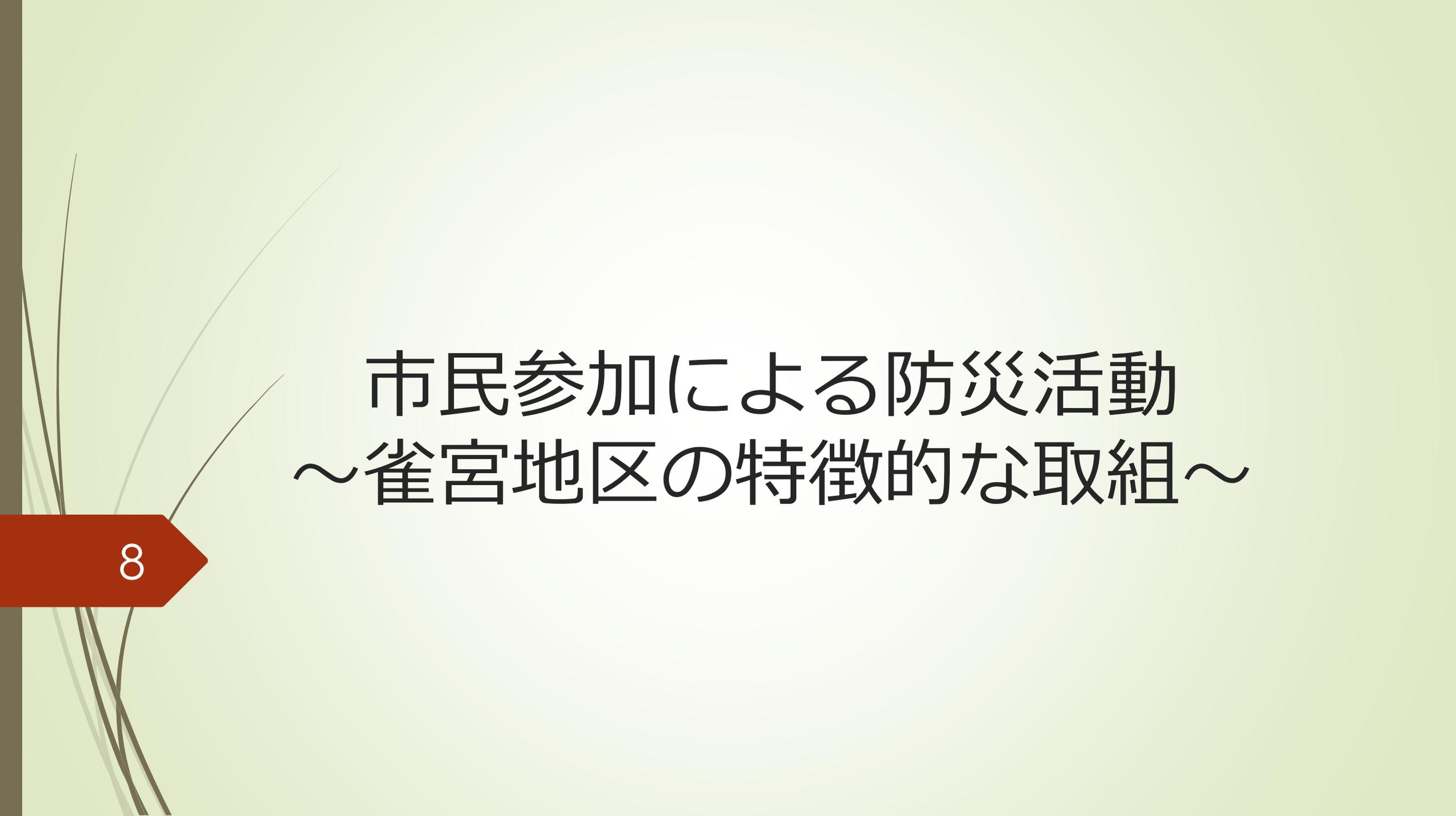


操法・放水訓練



資機材取り扱い訓練





市民参加による防災活動 ～雀宮地区の特徴的な取組～

聴覚障がい者の参加

- ▶ 手話通訳者も一緒に訓練に参加。災害時の緊急対応を学ぶとともに、障がい者の社会参加の促進を図った。



中学生の参加

- 様々な自然災害の可能性のある日本では、若い頃から災害リスクについて理解し、訓練に参加することが重要
- 防災訓練を通じて、将来、地域防災を担う人材となり、地域全体の防災力向上に大きく貢献することを目的に実施



応急救護訓練



初期消火訓練

ペット同行避難の広報，展示

- ▶ ペット同行避難に必要な避難用品や防災用品を説明し、実際にペット同行避難を行うことで、飼っていない人も真剣に「災害時のペット同行避難」を考えた。



市民参加による防災活動 ～今後の課題～

参加者の「非常用持ち出し袋」持参が少ない

- ▶ 日頃からの「緊急時の防災対応」を促すため、参加者に対し、「非常用持ち出し袋の持参」を依頼
⇒ 持参者が「7名」と非常に少なかった。



※ 持参の方に「非常用クラッカー進呈」として持参を促したが・・・

- ▶ 災害という一分一秒を争う状況で、避難所に行く際に最低限必要とするものを備えておく必要がある。

市民参加による防災活動 ～まとめ～

障がい者等も含めた防災訓練への参加

- ➡ 障がい者や高齢者を含む，あらゆる人を取り残さない防災の考え方「インクルーシブ防災」の更なる促進

地域住民全体への防災意識の浸透

- ➡ 非常用持ち出し袋の常備などを通じ，日ごろから誰もが防災意識を持ち，地域の災害リスクの削減を目指す。

若い世代の参加

- ➡ 中学生などの若い世代も参加し，地域全体で災害から身を守る大切さを「若い世代」にも広げる

～最後に～

雀宮地区では、

「市民参加による防災活動」を通じ、

「若い世代」から、

障がい者も含めた「あらゆる人」が、

「日ごろから防災意識」を持つことで、

地域のあらゆる人を取り残さない

「地域の災害リスクの削減」を目指します。